

公認会計士試験で 商2菅原祐司さんが 最年少合格／司法試 験は104人が難関パス

今年度の公認会計士第二次試験の合格者発表が10月6日にあり、中央大学関係では76人が合格した。昨年度(94人)を下回ったが、慶応、早稲田に次いで私大3位は変わらない。

このうち在学生合格者は20人で、2年生1人、3年生13人、4年生6人。いずれも経理研究所講座受講者。なかでも目をひく2年生合格者は、商学部会計学科の菅原祐司さん(20)。全国最年少合格者である。本学の歴史でも初めて。

菅原さんと会った。ガリベン君を思わせない、ニコニコ顔。はにかむ



公認会計士の合格証を手に、
菅原祐司さん

ような表情で、喜びを次のように語った。

「金融庁での合格発表だったんですけど、びっくりしました。正直受かっているとは思っていませんでした。なんでだろう、って感じ。支えてくれた親と経理研の先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。これから恩返しをしていけたらと思っています」

横浜商業高校出身。高校3年次に日商簿記一級を取得。大学では経理研に入り猛勉強の成果が、最短コースでの目標突破につながった。一人暮らしのワンルームにはテレビがない。やはり、違う！

それにしても、2年で目標達成すると、後の2年何するの？ とヤツカミを言ったら、少し照れて、

「もうちょっと勉強を続けたいです。まずは環境会計の本を読みみたい。あと、いままで我慢していたのでちょっと遊びたいかな」

向上心は絶えず、青春の夢いっぱい、のようだ。

卒業生のなかでは、三浦私大で5位)。



三浦志津さん(右)と奈緒さん姉妹

志津さんと奈緒さん姉妹もそろって難関をパスした。商学部会計学科を今春卒業の双子の姉妹。じつは『Hakumonちゅうおう』(2001年4

月号)で「公認会計士になる夢」を語ってもらったことがある。

姉の志津さんは新日本監査法人、妹の奈緒さんは朝日監査法人への採用が決まり、実務経験・研修3年をへて第3次最終試験を目指すことになる。

「いままでふたりで一緒に勉強してきたけど、ここで別の職場を選ばなければ死ぬまで離れるきっかけを見つけられないと思って(笑)。でも将来は姉妹で事務所を起そうかなんて考えたり」と志津さんは語った。

(学生記者 柿元理栄II商4年)

司法試験の合格者発表は11月12日に行われた。本学関係の合格者は104人で、昨年度と同数だった(国・私大で5位)。

在学生では、法学部3年、吉野秀保さんらが合格を果たした。

関東中心に高校生 10人が入賞 第3回中央大学地球 環境論文賞・表彰式

10月25日、中央大学多摩キャンパスにおいて、第3回中央大学地球環境論文賞(中央大学主催、高校生新聞社共催、朝日新聞社、産経新聞社、東京新聞、日本経済新聞社、毎日新聞社、読売新聞社後援)の表彰式が行われた。

「高校生地球環境論文賞」は、全学を挙げて環境問題に取り組む中央大学が、高校生に地球環境問題を考え、さまざまな角度から問題提起してもらうことを目的に開催する論文コンテスト。3年目のことしは募集エリアの関東地区を中心に計270通の応募があり、厳正な審査の結果、10人の論文が入賞(佳作以上)した。表彰式では角田邦重学長が「皆さんが大学を卒業する頃には、自然を守る運動やビジネスがさまざまに広がっているはず。受賞を問題意識を



深めるきっかけにしてください」と挨拶。最優秀賞の岸田有香さん（横浜隼人高校3年） 写真左 入賞者全員に賞状と副賞、記念品が贈られた。

岸田さんは、「受賞の電話があったときは母と手を取り合いジャンプして喜びました」と感激したようす。論文タイトルは「福祉である水・水道水と私たち」。水道水の安全性を守ることの大切さを論じ、「自分の考えがまとまっていく過程がよく書かれていた」と高い評価を得た。

優秀賞は、小松原優美さん（中大杉並高校3年） 写真右 4

人に。小松原さんは、「マクドナル

ドのハンバーガーを食べながら『どうして牛肉がこんなに安く食べられるの?』という話を母親としたのがきっかけで環境問題について考えるようになった」という。受賞論文

「逆転の発想」では、「どうして牛肉が……」と意外性に富んだ切り口から、関連な論理とアイデアを展開、「やってみなければ始まらない」というメッセージを送っている。

優秀論文は下記のアドレスで閲覧できる。

http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/sincyak/0311_ronbun.htm

最優秀賞に中大杉並 高の湯澤里香さん コンテスト

「賞をとったこと自体より、友だちや先生からおめでとうと言われたことがうれいす」

さらさらのロングヘアに、ブレザー姿。まだあどけなさの残る女子高生は照れくさそうに受賞の喜びを語った。



この夏行われた「第3回インターネットによる高校生小論文コンテスト」（毎日新聞社主催）で最優秀賞に輝いた湯澤里香さん 写真。中大杉並高校3年生である。

応募総数3842作品、予選通過95作品。本選は90分で「ゆとり」をテーマに1000字の課題小論文を競った。湯澤さんの作品は、審査員6人のうち5人が「最高」ランクを付け、文句なしで最優秀賞に。また、中大杉並高校は計5人が本選に進み、学校賞も受賞した。

「ゆとりというテーマを見たとき、いけると思いました。剣道部の顧問の先生方と「ゆとり」や「緑」についてたくさん議論をしたことがあったからです」と湯澤さん。小論文「ゆとり」は、日常のゆとりが欠如している情景を切りとりその背景などに

論及する、自然体で洞察力を感じさせる作品に仕上がっている。

コンテストへの応募は、選択授業の「論理トレーニング」で担当の先生に薦められたのがきっかけだったという。「それにパソコンは原稿用紙に書くのとは違って、手軽で気軽な感じ。楽しみながら取り組みました」

本が好き。小学の図書館の本は片端から読了し、「本ばかり読んでないで」と親に注意されたくらい。で、中学時代はあまり読まなかったそうだが、高校に入ってから再び。

好きな作家は……新井素子と『アルジャーノンに花束を』などのダニエル・キイス——2人の名を挙げた。ハツラツとした表情で、こんな話も「インディーズのパンクライブに行くことも大好き！」

週1でお囃子にも通っているし、剣道部では副部長もつとめた。元気でイキがいい、花の文武両道”とでもいうのかしら。

将来の夢は？
「国語の先生もいし、活字にも関わっていきたい、かな」

受賞で夢はずむ、18歳である。
(学生記者 西原香保里 18歳2年)